

暗い神社林を サクラと紅葉の名所に

星 泰蔵
(福島県南会津町)



植樹祭の様子



暗い大木スギ林の神社林を伐採し、ヤマザクラ、モミジ等に植え替える神社林整備に取り組みました。神社林は住宅に隣接しており、獣害・日照不足・花粉症などが問題になっていたためです。神社街道周辺の山林整備をし、神社とあわせた景観形成を図りたいと思っています。

川島集落(約120戸)は国道121号線、会津鬼怒川線に沿った約1000mの長い集落

です。神社林を含む山林は約20haあります。麓から20mくらい奥まったところには鶯神社、雷電神社、八幡神社、山神社、琴比良神社、疱瘡神社、秋葉神社、稻荷神社など、多くの社殿・神社が建ち、参道も整備されています。

南会津町では、現在ヤマザクラ1万本植栽運動を展開しています。その一環として当集落においても、神社のスギ林を麓から20mくらいまで約3haを全伐。ヤマザクラ200本、イロハモミジ100本、ヤマツツジ100本を植えることにしました。

苗木は町から無償でもらい、昨年11月2日に集落主催の植樹祭を開催。区民の老若男女(6〜85歳)が60人ほど参加しました。参加者には紅白の饅頭を記念品として配り、今後樹木には植栽者の名札もつける予定です。植樹後の管理は、冬と春の雪害対策、夏と秋の下草刈りなど、年5回ほど集落の方をお願いしています。

また当集落はたいへん歴史のある集落で、かつては宿場町と

して栄え、明治初期にはイギリスの女性旅行作家イザベラ・バードが宿泊したところです。将来このこととあわせ川島集落を観光名所にしたいと思います。

春には一番に咲くヤマツツジ、ヤマザクラ(地元にあるたいへん美しい花が咲くオオヤマザクラの原木の子孫です)、秋は燃えるような紅葉が楽しめる山づくりを目指しています。



南会津町のオオヤマザクラ。町がタネをとり実生で苗木を生産する 写真提供=南会津町

おらをシダレモモで いっぱいに

三宅明 (岐阜県恵那市・きね四季花会会長)



草畑を花の園に

恵那市串原地区は豊田市や東名高速名古屋インターから車で1時間ほどの過疎の山村です。

2002年に観光、雇用の確保、特産の販売促進のため、温泉・軽スポーツ・直売所等の施設をつくりました。いっぽうで、高齢化が進むにつれ山間地の田畑の維持管理が困難となり、不耕作の田畑が目につくようになりました。

そこで木根集落では、住んでいる者にも、訪ねてくださる人にとっても魅力的なところのようにと、地域の仲間と「きね四季花会」を結成しました。

畑を花の園に」のキャッチフレーズのもと、2011年からシダレモモ（枝垂れ桃）やハスの植栽をはじめていきます。

シダレモモを選んだのは、サクラに劣らず美しいこと、生育が早いこと、樹高が低くて管理が容易と考えたことからです。

初めての植栽は11年の春。私を含む2人が自宅付近の不耕作畑に植えました。

これまでに 3950本を植栽

当初は、近隣の先進地より苗を300本仕入れ植栽しました。順調に生育したので、13、14年には、きね四季花会のメンバー



最初に植栽した畑。「きねしだれ桃園」と名づけ、2019年には桃まつりも開催した